

一般質問



シルバードライビングスクールの様子

高齢者の交通事故防止について

質問(小池利雄議員) 高齢者の交通事故防止のために、市としてどのように考えているか伺います。

質答(市長) 平成二十年七月末における大田原市内での交通事故状況を見ますと、昨年同時期と比較して、高齢者の事故は八件減の五十二件で全体の25.9%、負傷者数は一人減の四十一人で15.4%を占め、死者数は昨年と同数の一人でありました。このように七月末までは、昨年同期に比べ交通事故に係る高齢者の数は減少傾向にありましたが、残念ながら八月二十日に一転、一人の高齢者の死亡事故が発生してしまいました。このような状況を踏まえ、本市においては、大田原警察署と連携を強化し、高齢者にシルバードライビングスクールや栃木県警察が昨年から推進している高齢者自転車講習修了証取得講習などを行っております。特に歩行者

あるいは自転車を利用する高齢者に対しては、道路の正しい横断をはじめとする交通ルールの遵守、反射材用品等の活用について指導を徹底し、また自動車を運転する高齢者に対しては、交通死亡事故の原因が運転操作の遅れや一時停止違反など、運転者としての基本動作に関するものが高比率であることから、自らの運転適用能力に応じた運転の実践について指導するとともに、高齢者マークの使用促進に努めております。さらに、他の世代の運転者に対しては、高齢者に対する思いやりのある運転の励行を推進することとしております。

市営中田原霊園の増設について

質問(五十嵐孝夫議員) 中田原霊園増設の見通しについて伺います。

質答(市長) 中田原霊園は、市街地から二キロメートル以内と、交通の便もよく、住宅地からほどよく離れた位置にあり、農地と山林に囲まれた墓地としては、特に条件の恵まれた土地であるとの観点から選定し、和型墓所を二百九十五区画、洋型墓所を七十五区画、合わせて三百七十区画を整備し、

平成十五年一月から円滑に供用を開始しているところであります。二次募集及び平成二十年一月を含め、過去二回の空き墓地六区画を公募したところ、百件を超える抽せん漏れが生じ、また市営墓地を希望する相談案件が月に平均三件程度ずつ寄せられており、宗派にこだわらない自由な墓地を望むなど、宗教観の多様化が垣間見られます。これらを踏まえ、市営墓地整備に当たっては、墓地

需要動向の把握や墓地を必要とする市民に対し、優良な墓地を安定的に供給していく必要があります。市営墓地の使用許可に応募した方々は、在来仏教以外を信仰する人や宗教色のない墓地を求めするなど、これまでの宗教にこだわらない自由な墓地を望んでおり、市といたしましても早急な市営墓地の整備が必要であり、増設の状況が整っている中田原霊園の隣接地を候補地として、現状と同規模の拡張により市民の墓地需要にこたえらるとともに、生活環境の向上を図ってまいりたいと考えております。



現在と同規模の拡張が行われる市営中田原霊園